

学校だより

令和5年1月31日



2月号

NO. 401

横浜市立茅ヶ崎小学校

学校 <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/chigasaki/>

学校教育目標

自分らしさを創る たくましい ちがさきっ子

無病息災を願って

副校長 西川 雅行

先週末、10年に一度の最強寒波が猛威を振るい、厳しい寒さとなりました。新型コロナウイルス新規感染者数が下降線をたどる一方で、3季ぶりにインフルエンザが流行期に入ったと横浜市は発表しました。昨年12月から学級閉鎖の知らせがちらほら届き、1月22日までの週で23件（小学校19件、中学校4件）の報告が上がり、先週末、とうとう本校でも学級閉鎖の報告を出しました。

「一月往ぬる 二月逃げる 三月去る」とはよく言ったもので、もう2月です。今週末の「節分」は、実は「立春・立夏・立秋・立冬の前日」の年4回ある節分の一つです。旧暦で「一年のはじまりは立春から」と考えられていたので、大晦日にあたる「立春の前日」の節分だけが重視されて現在に至ったようです。昔は季節の変わり目には病気や災害が起こり、邪気が生じると考えられていたため、新年を迎えるにあたって、邪気を祓い清め、一年間の無病息災を祈る行事が行われてきました。節分に行う豆まきには、「病気や災害を鬼に見立て、邪気を追い払い、無病息災を願う」という意味が込められています。

まだまだ収束しない新型コロナウイルス、まさに流行しているインフルエンザ、流行が危ぶまれる感染性胃腸炎等々。学校を脅かすこれらの感染症が流行し体調を崩しやすい時期は、まだまだ続きます。これらの感染症を鬼に見立てて、豆をまくことで校内から追い払うことができれば、どんなによいことでしょうか。それが叶わない現在、「石けんを使ったこまめな手洗いや咳エチケット、感染力のある期間は休養する、嘔吐物はできるだけ早く次亜塩素酸ナトリウムと表記してあるもので消毒処理する」等の基本的な感染症対策を継続するとともに、地域の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、授業や各種行事等の教育活動を継続し、子供の健やかな学びに努めてまいります。また、どんなに感染症対策を行っても、感染リスクをゼロにすることはできないという事実を前提として、感染者が確認された場合、これまでどおり迅速かつ的確に対処するよう、校内は勿論のこと、教育委員会や学校医等の専門家と連携してまいります。ご家庭及び地域の皆様のご理解とご協力を引き続きお願いしたいと思います。

暦の上では旧冬と新春の境目にあたり、2月4日の「立春」から春になります。梅の花が咲き始め、徐々に暖かくなり、春の兆しがとところどころで見られるようになります。一日も早く「三寒四温」という言葉が聞かれるようになることを待ち望み、引き続き、感染症拡大予防の視点から対応を進めてまいります。繰り返しますが「手洗い・うがいの励行や睡眠・休息を十分にとる等の予防に努めること、体調の悪いときには無理をせずに休むこと」が大切です。ご家庭での登校前のお子さんの検温を含む健康観察を、引き続き行っていただきますようよろしくお願いいたします。